

平成 23 年 3 月期

決算補足資料（連結・単独）

# 目次

## 【連結情報】

- P. 1・・・連結業績の状況、セグメント情報、連単倍率、経営指標
- P. 2-5・平成22年度（23年3月期）の連結決算業績  
    (①売上高、②営業利益、③経常利益、④特別損益、⑤当期純利益)  
    主な製品の売上高、海外売上高
- P. 6・・・平成23年度（24年3月期）の連結決算業績（見込み）  
    (①売上高、②営業利益、③経常利益、④当期純利益)
- P. 7・・・連結決算業績（見込み）、主な製品の売上高（見込み）
- P. 8・・・連結キャッシュ・フローの状況
- P. 9・・・連結損益計算書
- P. 10-11・連結貸借対照表
- P. 12・・・連結株主資本等変動計算書
- P. 13・・・発行済株式・自己株式
- P. 14・・・退職給付債務の状況について
- P. 15・・・減価償却費・設備投資額、期末従業員数

## 【単独情報】

- P. 16・・・主要な経営指標等の推移
- P. 17・・・損益計算書
- P. 18-19・貸借対照表
- P. 20・・・株主資本等変動計算書
- P. 21-23・販売費及び一般管理費・率、有価証券・投資有価証券残高内訳、  
    期末従業員数、販売状況、株式の状況
- P. 24-28・開発品の進捗状況・主な開発品のプロフィール

(注) (単位：億円) は、億円未満の数値を四捨五入しています。

## 平成22年度（23年3月期）連結決算

### 連結業績の状況

(単位：億円)

	21年度 実績	22年度 予想	22年度 実績	予想比	前期比
売上高	1,360	1,310	1,353	3.2%	▲0.5%
営業利益	398	299	352	17.7%	▲11.6%
経常利益	427	319	375	17.7%	▲12.1%
当期純利益	279	205	242	18.2%	▲13.1%

(注) 22年度予想の数値は、平成23年3月期 第3四半期決算発表時に公表したものです。

### セグメント情報

(1) 当期の部門別業績の概況

(単位：億円)

事業部門	売上高
医薬品事業	1,353

(2) 当期の海外売上高の概況

(単位：億円)

地域	売上高
本邦	1,315
海外	38

### 連単倍率

	21年度	22年度
(損益計算書関係)		
売上高	1.01	1.01
営業利益	1.02	1.02
経常利益	1.02	1.02
当期純利益	1.01	1.01
(貸借対照表関係)		
総資産	1.02	1.02
純資産	1.02	1.02

### 経営指標

(単位：円)

	21年度		22年度	
	連結決算	単独決算	連結決算	単独決算
一株当たり当期純利益	256.38	254.20	223.88	221.43
一株当たり純資産	3,701.49	3,676.58	3,685.23	3,658.18
自己資本比率	92.9%	93.8%	92.1%	93.0%

## 平成22年度(23年3月期)の連結決算業績

### ①売上高 1,353億円 前期比0.5%減 (前期1,360億円)

主要製品の状況については、一昨年12月に新発売しました2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は、積極的な情報提供活動により当初計画をこえるペースで新規処方拡大が進み、当第3四半期に上方修正した売上計画105億円を上回る、111億円となりました。また、同時期に新発売しました抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」も、本剤への評価の高まりとともに順調に売上が伸び47億円となりました。また、一昨年4月に新発売しました骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」も着実に市場育成が進み20億円となりました。

一方、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」や気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」などの既存品は、引き続き潜在市場の開拓活動を積極的に進めましたが、薬価の引き下げや後発品・競合品の影響などにより、「オパルモン錠」は前期比45億円(10.1%)減の401億円、「オノンカプセル」は前期比36億円(14.3%)減の215億円、「キネダック錠」は前期比29億円(18.0%)減の132億円となりました。

なお、当期の売上高(1,353億円)は、本年2月2日の第3四半期決算発表時に上方修正しました通期予想(1,310億円)を43億円上回っております。

#### ※通期売上予想を上回った主な要因について

1. オノンカプセルは、例年以上に花粉症が流行したことで、想定を上回る新規処方につながりましたことから、通期予想を大幅に上回りました。
2. グラクティブ錠は、本年1月から処方期間の制限が解除されたことによって処方対象が拡がり、想定以上の売上増につながりました。
3. この度の東日本大震災後、製品の出荷計画を通常よりも多めに設定して医療機関への医薬品の流通確保に努めましたことから、売上全体が底上げされたものと考えております。

### ②営業利益 352億円 前期比11.6%減 (前期398億円)

原価率が高い新製品(導入品)の売上比率上昇を主因として、売上原価が前期比39億円(18.8%)増の248億円となり、販売費及び一般管理費が前期比横ばいの753億円となりましたので、営業利益は前期比46億円(11.6%)減の352億円となりました。

なお、販売費及び一般管理費のうち研究開発費につきましては、新薬候補化合物の導入に伴うライセンス費用の増加などにより、前期比32億円(8.1%)増の429億円となりました。また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、退職給付費用の減少や経費の効率化などにより、前期比32億円(9.1%)減の324億円となりました。

**③経常利益** 375 億円 前期比 12.1%減 (前期 427 億円)

営業外費用の増加により、営業外収支が前期比 5 億円減少しましたので、経常利益は前期比 52 億円 (12.1%) 減の 375 億円となりました。

**④特別損益** 特別損益は 6 億円の損失 前期比 11 億円利益が減少

1) 特別利益が前期比 4 億円減少

前期には過年度研究開発費戻入益など 4 億円を計上しましたが、当期の計上はありませんでした。

2) 特別損失が前期比 6 億円増加

前期の計上はありませんでしたが、当期には投資有価証券評価損など 6 億円を計上しました。

**⑤当期純利益** 242 億円 前期比 13.1%減 (前期 279 億円)

利益水準の低下や、試験研究費の税額控除額の増加により、当期の税金費用が前期比 26 億円減少しました結果、当期純利益は前期比 37 億円 (13.1%) 減の 242 億円となりました。

<主な製品売上高の通期予想との比較> (注) 予想は、本年 2 月 2 日に発表のものです。

	23年3月期 売上高		予想比	
	(予想)	(実績)	増減額	増減率
オパールモン錠	395	401	+6	+1.5%
オノンカプセル	195	215	+20	+10.4%
キネダック錠	130	132	+2	+1.5%
フオイパン錠	105	110	+5	+4.4%
オノンドライシロップ	80	85	+5	+6.8%
ステーブラ錠	60	58	▲2	▲2.6%
注射用エラスポール	50	50	▲0	▲0.5%
注射用オノアクト	35	36	+1	+1.5%
グラクティブ錠	105	111	+6	+5.8%
イメンドカプセル	45	47	+2	+5.4%
リカルボン錠	20	20	▲0	▲2.5%

主な製品の売上高の推移

(単位：億円)

	21年度			22年度		
	金額	前期比		金額	前期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
オパールモン錠	446	+27	+6.4%	401	▲45	▲10.1%
オノンカプセル	251	▲20	▲7.3%	215	▲36	▲14.3%
キネダック錠	161	▲12	▲7.0%	132	▲29	▲18.0%
フオイパン錠	127	▲6	▲4.8%	110	▲17	▲13.7%
オノンドライシロップ	91	▲7	▲6.7%	85	▲6	▲6.2%
ステーブラ錠	46	+18	+62.4%	58	+13	+28.1%
注射用エラスポール	52	▲3	▲5.3%	50	▲3	▲6.1%
注射用オノアクト	31	+1	+3.4%	36	+4	+13.0%
グラクティブ錠	15	(平成21年12月発売)		111	+96	—
イメンドカプセル	5	(平成21年12月発売)		47	+42	—
リカルボン錠	9	(平成21年4月発売)		20	+10	—

(注) 仕切価格（出荷価格）ベースでの売上高を開示しております。

## 海外売上高

(単位：億円)

	21年度	22年度
輸出高	33	38
海外特許料収入	14	0
海外売上高合計	47	38
売上高比率	3.4%	2.8%

### 主要輸出先

韓国、イタリア、台湾、ドイツ、オランダ、アメリカなど

### 主要輸出品目

オパールモン、オノン、プレグランディン、  
プロスタンディン、エフオーワイ、フオイパンなど

## 平成 23 年度 (24 年 3 月期) の連結決算業績 (見込み)

### ①売上高 1,400 億円 前期比 3.5%増(22 年度 1,353 億円)

次期につきましても、引き続き後発品の普及・浸透が進むものと予想されますが、新製品では、「グラクティブ錠」や「イメンドカプセル」、また本年 4 月に発売した過活動膀胱治療薬「ステブラ OD 錠」などの市場拡大を図り、既存品についても引き続き潜在市場の開拓に努め、前期比 3.5%増の 1,400 億円を見込んでいます。

また次期には、国内初の貼付型のアルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」や月一回間歇経口投与の骨粗鬆症治療剤「リカルボン 50mg 錠」、抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「プロイメント静注用」、マルチスライス CT による冠動脈造影における冠動脈描出能の改善を適応とする「コアベータ静注用」の 4 製品の承認・上市が期待されますが、これらの製品の上市後の売り上げは、上記の売上見通しには織り込んでいません。上市後において、業績に大きな影響を与えると予想される場合には、速やかに開示いたします。

### ②営業利益 357 億円 前期比 1.4%増 (22 年度 352 億円)

販売費及び一般管理費は、前期比ほぼ横ばいの見込みですが、原価率の高い新製品の売上比率は次期でもさらに増加する見込みであり、営業利益は前期比 5 億円 (1.4%) 増の 357 億円を予想しています。なお、販売費及び一般管理費のうち研究開発費につきましては、積極的な研究開発活動による費用増加の一方で、平成 22 年度に契約したライセンス契約規模での一時金計上を次期予想には含めていないことから、前期比 6 億円(1.5%)減の 423 億円を見込んでいます。また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、引き続き経費の効率化に努めますが、一時的な IT 費用による増加や新製品の上市準備に伴う販売費用の増加などにより、前期比 6 億円(2.0%)増の 330 億円と見込んでいます。

### ③経常利益 378 億円 前期比 0.7%増 (22 年度 375 億円)

金利低下による運用収益の減少などから営業外収支が前期比 2 億円減の 21 億円程度となる見込みですので、経常利益は前期比 3 億円 (0.7%) 増の 378 億円を予想しています。

### ④当期純利益 245 億円 前期比 1.1%増 (22 年度 242 億円)

特別損益において、平成 23 年 3 月期に計上しました投資有価証券評価損を次期には見込んでいませんことから、利益が 6 億円増加する見込みです。一方で、法人税等は 6 億円増加するため、当期純利益は前期比 3 億円 (1.1%) 増の 245 億円を予想しています。

本年 3 月に発生しました東日本大震災の次期業績に与える影響は、現在のところ軽微にとどまると予想しています。なお、震災の国内経済に与える影響は今後拡大することも考えられますので、このような場合には、適宜業績予想を見直し、適時に開示いたします。



## 連結決算業績（見込み）

（単位：億円）

	21年度	22年度	23年度 見込み	22年度比
売上高	1,360	1,353	1,400	+3.5%
営業利益	398	352	357	+1.4%
経常利益	427	375	378	+0.7%
当期純利益	279	242	245	+1.1%

## 主な製品の売上高（見込み）

（単位：億円）

	22年度			23年度見込み		
	金額	前期比		金額	前期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
オパールモン錠	401	▲45	▲10.1%	385	▲16	▲4.0%
オノンカプセル	215	▲36	▲14.3%	180	▲35	▲16.4%
キネダック錠	132	▲29	▲18.0%	115	▲17	▲12.9%
グラクティブ錠	111	+96	—	250	+139	+125.0%
フオイパン錠	110	▲17	▲13.7%	90	▲20	▲17.9%
オノンドライシロップ	85	▲6	▲6.2%	80	▲5	▲6.4%
ステーブラ錠	58	+13	+28.1%	65	+7	+11.2%
注射用エラスポール	50	▲3	▲6.1%	47	▲3	▲5.6%
イメンドカプセル	47	+42	—	65	+18	+37.0%
注射用オノアクト	36	+4	+13.0%	38	+2	+7.0%
リカルボン錠	20	+10	—	22	+2	+12.8%

（注1）仕切価格（出荷価格）ベースでの売上高を開示しております。

（注2）グラクティブ錠、イメンドカプセルについては平成21年12月に、リカルボン錠については平成21年4月に新発売されたため、前期比の増減率を記載しておりません。

## 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	21年度	22年度	増減
現金及び現金同等物期首残高	535	721	
営業活動によるキャッシュ・フロー	213	298	+85
投資活動によるキャッシュ・フロー	169	111	▲58
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲196	▲303	▲108
増減（現金及び現金同等物）	186	105	
現金及び現金同等物期末残高	721	826	

(注) 各年度の▲はキャッシュの流出を示しています。

(増減の主な内容・・・カッコ内は、21年度→22年度)

### ①営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益の減少	▲62億円 (431億円→369億円)
法人税等の支払額の減少	+44億円 (▲181億円→▲137億円)
たな卸資産の減少	+61億円 (▲46億円→16億円)
仕入債務の増加	+36億円 (▲6億円→30億円)

### ②投資活動によるキャッシュ・フロー

有価証券及び投資有価証券の償還等による収入と取得による支出の差額	▲79億円 (206億円→127億円)
有形固定資産の取得による支出の減少	19億円 (▲32億円→▲13億円)

### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

自己株式の取得による支出の減少	▲108億円 (▲0億円→▲108億円)
配当の支払い	▲0億円 (▲196億円→▲196億円)

# 連結損益計算書

(単位：億円)

	21年度	22年度	増減
売上高	1,360	1,353	▲7
(前期増減率)	▲0.4%	▲0.5%	
売上原価	208	248	+39
(対売上高比率)	15.3%	18.3%	
販売費・一般管理費	753	753	▲0
(対売上高比率)	55.4%	55.7%	
内、研究開発費	397	429	+32
(対売上高比率)	29.2%	31.7%	
営業利益	398	352	▲46
(前期増減率)	▲8.4%	▲11.6%	
(営業利益率)	29.3%	26.0%	
営業外収益	34	35	+1
営業外費用	5	11	+6
経常利益	427	375	▲52
(前期増減率)	▲8.6%	▲12.1%	
(経常利益率)	31.4%	27.8%	
特別利益	4	—	▲4
特別損失	—	6	+6
税金等調整前当期純利益	431	369	▲62
法人税・住民税及び事業税	174	127	▲47
法人税等調整額	▲23	▲2	+21
少数株主損益調整前当期純利益	281	245	▲36
少数株主利益	2	3	+0
当期純利益	279	242	▲37
(前期増減率)	+17.3%	▲13.1%	
(当期純利益率)	20.5%	17.9%	

<主な対前期増減要因>

グラクティブ錠、イメン  
ドカプセルなど、原価率  
の高い新製品（導入品）  
の売上が増加。

<主な対前期増減要因>

新薬候補化合物の導入に  
伴うライセンス費用の増  
加。

<主な対前期増減要因>

寄付金が約5億円増加。

## <特別損益の内容>

当期の特別損益は6億円の損失となり前期比で11億円利益が減少しました。

### 1) 特別利益が前期比4億円減少

- (1) 前期には、過年度研究開発費戻入益などで4億円を計上しました。
- (2) 当期には、特別利益の計上はありませんでした。

### 2) 特別損失が前期比6億円増加

- (1) 前期には、特別損失の計上はありませんでした。
- (2) 当期には、投資有価証券評価損などで6億円を計上しました。

## 連結貸借対照表

(単位：億円)

	21年度	22年度	増減	
流動資産	1,818	1,914	+95	
現金及び預金	154	224	+71	
受取手形及び売掛金	316	367	+51	
有価証券	978	1,035	+57	
たな卸資産	146	130	▲16	
繰延税金資産	138	136	▲1	
その他	86	20	▲66	※(注1)
貸倒引当金	▲0	▲0	+0	
固定資産	2,514	2,331	▲183	
有形固定資産	500	486	▲14	
建物及び構築物	236	225	▲11	
機械装置及び運搬具	21	20	▲1	
土地	225	226	+0	
建設仮勘定	6	7	+0	
その他	11	8	▲2	
無形固定資産	9	10	+1	
投資その他の資産	2,005	1,835	▲170	
投資有価証券	1,906	1,680	▲227	※(注4)
繰延税金資産	40	58	+18	
その他	59	98	+39	※(注2)
貸倒引当金	▲0	▲0	+0	
資産の部合計	4,332	4,244	▲88	

※(注1) 未収入金の残高が61億円減少したことなどによる。

※(注2) 前払年金費用を38億円計上したことなどによる。

(参考)

\*金融資産(現金及び預金、有価証券、投資有価証券の合計)の過去3年間の推移  
(単位：億円)

	20年度(21年3月末)	21年度(22年3月末)	22年度(23年3月末)
金融資産残高	2,953	3,038	2,939

(単位：億円)

	21年度	22年度	増減
負債の部	271	299	+28
流動負債	234	262	+28
支払手形及び買掛金	23	53	+30
未払法人税等	84	74	▲10
賞与引当金	39	40	+1
その他の引当金	16	17	+1
その他	72	78	+6
固定負債	37	37	▲0
長期借入金	0	0	▲0
長期末払金	1	1	—
繰延税金負債	0	0	▲0
再評価に係る繰延税金負債	29	29	▲0
退職給付引当金	5	5	▲1
その他引当金	1	1	+0
その他	0	1	+1
純資産の部	4,061	3,946	▲115
資本金	174	174	—
資本剰余金	171	171	—
利益剰余金	4,309	4,355	+47
自己株式	▲634	▲742	▲108
株主資本合計	4,019	3,958	▲61
その他有価証券評価差額金	97	42	▲55
土地再評価差額金	▲89	▲89	▲0
為替換算調整勘定	▲2	▲3	▲1
その他の包括利益累計額合計	6	▲50	▲57
少数株主持分	36	39	+2
負債及び純資産合計	4,332	4,244	▲88

※ (注3)

※ (注4)

※ (注3) 自己保有の株式数

21年度末 1,211万株 22年度末 1,482万株

※ (注4) 保有有価証券の含み益の減少などによる。

## 連結株主資本等変動計算書

(単位：億円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計
前期末残高	174	171	4,309	▲634	4,019
当期変動額					
剰余金の配当			▲196		▲196
当期純利益			242		242
土地再評価差額金取崩高			0		0
自己株式の取得				▲108	▲108
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	47	▲108	▲61
当期末残高	174	171	4,355	▲742	3,958

	その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
前期末残高	97	▲89	▲2	6	36	4,061
当期変動額						
剰余金の配当						▲196
当期純利益						242
土地再評価差額金取崩高						0
自己株式の取得						▲108
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	▲55	▲0	▲1	▲57	2	▲54
当期変動額合計	▲55	▲0	▲1	▲57	2	▲115
当期末残高	42	▲89	▲3	▲50	39	3,946

## 発行済株式・自己株式

株式の種類	21年度末 (千株)	増加 (千株)	減少 (千株)	22年度末 (千株)
発行済株式 普通株式	120,847	—	—	120,847
自己株式 普通株式	12,113	2,713	—	14,826

(増加) 取締役会決議に基づく自己株式買付による増加 2,709 千株  
 単元未満株式の買取りなどによる増加 3 千株

## 退職給付債務の状況について

22年3月末現在 (連結) 割引率1.4%適用 (単位:億円)

退職給付債務	384
年金資産(時価) (注)	392
引当金	5
未認識数理計算上の差異	▲13

平成21年度に発生した年金資産の運用益(未認識数理計算上の差異)13億円については、平成22年度に退職給付費用から控除しました。

(注) 退職給付財政の健全化を目的として、退職給付信託を設定し現金50億円を拠出しました。これにより、退職給付引当金の残高が同額減少しております。

23年3月末現在 (連結) 割引率1.4%適用 (単位:億円)

退職給付債務	392
年金資産(時価) (注)	419
引当金	5
前払年金費用	38
未認識数理計算上の差異	6

平成22年度に発生した年金資産の運用損(未認識数理計算上の差異)6億円については、平成23年度に退職給付費用として計上する予定です。

なお、平成23年4月1日付で、退職給付制度の改定を行いました。この制度改定は、給付利率の見直しを主な内容としており、影響額については現在算定中ですが、退職給付債務が約50億円程度減少すると見込んでいます。

また当該金額については、平成23年度に退職給付費用から控除する予定です。



## 減価償却費・設備投資額 (連結決算ベース)

### ・減価償却費・率

(単位：億円)

	21年度	22年度	23年度 予定
減価償却費 対売上比率%	30 2.2%	30 2.2%	30 2.1%

### ・設備投資額 (工事ベース)

(単位：億円)

	21年度	22年度	23年度 予定
生産設備 生産機器更新等	17	7	9
研究設備	4	5	11
営業設備他	3	5	5
合計	24	17	25

## 期末従業員数 (連結決算ベース)

	21年度	22年度
期末従業員数 (人)	2,661	2,655

## 平成22年度(23年3月期) 単独決算

### 主要な経営指標等の推移

(単位：億円)

	21年度	22年度	23年度 予定
売上高	1,344	1,336	1,384
営業利益	392	345	351
経常利益	421	368	371
当期純利益	276	240	244
一株当たり当期純利益	254.20円	221.43円	230.12円
一株当たり年間配当金(注)	180円	180円	180円
純資産	3,998	3,879	
総資産	4,261	4,169	
自己資本比率	93.8%	93.0%	
一株当たり純資産	3,676.58円	3,658.18円	
自己資本当期純利益率(ROE)	7.1%	6.1%	

(注) 21年度一株当たり年間配当金の内訳 普通配当 180円

22年度一株当たり年間配当金の内訳 普通配当 180円

## 損益計算書

(単位：億円)

	21年度	22年度	増減	
売上高	1,344	1,336	▲8	
売上原価 (売上原価率)	202 15.0%	241 18.1%	+39	(注1)
研究開発費 (研究開発費率)	400 29.8%	431 32.2%	+31	(注2)
その他販管費 (販管費率)	350 26.0%	319 23.9%	▲31	
営業利益	392	345	▲47	
営業外収益	33	34	+1	
受取利息及び配当金	30	29	▲0	
営業外費用	5	11	+6	(注3)
経常利益	421	368	▲53	
特別利益	4	—	▲4	
投資有価証券売却益	1	—	▲1	
過年度研究開発費戻入益	3	—	▲3	
特別損失	—	6	+6	
投資有価証券評価損	—	6	+6	
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	0	+0	
税引前当期純利益	425	361	▲63	
法人税・住民税及び事業税	172	124	▲48	
法人税等調整額	▲23	▲2	+21	
当期純利益	276	240	▲37	

※ (注1) 売上原価率が上昇している理由

グラクティブ錠、イメンドカプセルなど、原価率が高い新製品（導入品）の売上比率が上昇していることなどによります。

(注2) 研究開発費が増加している理由

新薬候補化合物の導入に伴うライセンス費用の増加など、積極的な研究開発投資に努めたことなどによります。

(注3) 営業外費用が増加している理由

寄付金が約5億円増加していることなどによります。

## 貸借対照表

(単位：億円)

	21年度	22年度	増減
(資産の部)			
<b>I 流動資産</b>	<b>1,776</b>	<b>1,866</b>	<b>+90</b>
現金・預金	123	190	+67
受取手形	0	0	▲0
売掛金	310	361	+50
有価証券	977	1,032	+55
たな卸資産	143	127	▲15
繰延税金資産	137	135	▲1
未収入金	74	13	▲61
その他	12	7	▲5
貸倒引当金	▲0	▲0	+0
<b>II 固定資産</b>	<b>2,485</b>	<b>2,304</b>	<b>▲182</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>485</b>	<b>471</b>	<b>▲14</b>
建物	222	211	▲10
機械・装置	17	16	▲1
土地	225	225	+0
建設仮勘定	6	7	+0
その他	15	12	▲3
<b>無形固定資産</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>+1</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,992</b>	<b>1,823</b>	<b>▲169</b>
投資有価証券	1,893	1,668	▲225
繰延税金資産	39	57	+18
その他	59	98	+39
貸倒引当金	▲0	▲0	+0
<b>資産合計</b>	<b>4,261</b>	<b>4,169</b>	<b>▲92</b>

※ (注2)

(単位：億円)

	21年度	22年度	増減
(負債の部)			
<b>I 流動負債</b>	<b>228</b>	<b>255</b>	<b>+27</b>
支払手形	2	0	▲1
買掛金	19	50	+31
未払費用	32	37	+5
未払法人税等	83	73	▲10
賞与引当金	38	39	+1
役員賞与引当金	1	1	▲0
返品調整引当金	0	0	—
売上割戻引当金	8	9	+1
販売促進引当金	7	7	+0
その他	38	39	+1
<b>II 固定負債</b>	<b>35</b>	<b>35</b>	<b>+0</b>
長期借入金	0	0	▲0
長期未払金	1	1	—
再評価に係る繰延税金負債	29	29	▲0
退職給付引当金	5	4	▲1
その他	0	1	+1
<b>負債合計</b>	<b>263</b>	<b>291</b>	<b>+27</b>
(純資産の部)			
株主資本			
資本金	174	174	—
資本剰余金	170	170	—
資本準備金	170	170	—
利益剰余金	4,281	4,325	+44
利益準備金	43	43	—
その他利益剰余金	4,238	4,282	+44
別途積立金等	3,745	3,745	—
繰越利益剰余金	493	537	+44
自己株式	▲634	▲742	▲108
<b>株主資本合計</b>	<b>3,991</b>	<b>3,927</b>	<b>▲64</b>
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金	97	41	▲55
土地再評価差額金	▲89	▲89	▲0
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>7</b>	<b>▲48</b>	<b>▲55</b>
<b>純資産合計</b>	<b>3,998</b>	<b>3,879</b>	<b>▲119</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>4,261</b>	<b>4,169</b>	<b>▲92</b>

※ (注1) 自己保有の株式数 21年度末 1,210万株 22年度末 1,481万株

※ (注2) 保有有価証券の含み益の減少などによる。

## 株主資本等変動計算書

(単位：億円)

	株 主 資 本							
	資本金	資本 剰余金	利 益 剰 余 金				自己 株式	株主資本 合計
			利益 準備金	別途 積立金等	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
前期末残高	174	170	43	3,745	493	4,281	▲634	3,991
当期変動額								
剰余金の配当					▲196	▲196		▲196
当期純利益					240	240		240
土地再評価差額金取崩高					0	0		0
自己株式の取得							▲108	▲108
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	44	44	▲108	▲64
当期末残高	174	170	43	3,745	537	4,325	▲742	3,927

	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
前期末残高	97	▲89	7	3,998
当期変動額				
剰余金の配当				▲196
当期純利益				240
土地再評価差額金取崩高				0
自己株式の取得				▲108
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	▲55	▲0	▲55	▲55
当期変動額合計	▲55	▲0	▲55	▲119
当期末残高	41	▲89	▲48	3,879

## 販売費及び一般管理費・率

(単位：億円)

	21年度	22年度	23年度 予定
販売費 対売上比率 %	105 7.8	100 7.5	108 7.8
研究開発費 対売上比率 %	400 29.8	431 32.2	423 30.6
その他 対売上比率 %	245 18.2	219 16.4	218 15.7
合計 対売上比率 %	749 55.8	750 56.1	749 54.1

## 有価証券・投資有価証券残高内訳

(単位：億円)

### 有価証券

FFF・MMF 611  
1年以内償還債券 421

---

合計 1,032

### 投資有価証券

債券 949  
株式 700  
その他 19

---

合計 1,668

## 期末従業員数

	21年度	22年度
期末従業員数(人)	2,430	2,418

## 販売状況

(単位：億円)

	21年度	22年度
循環呼吸器系薬剤 比率 %	937 69.8	841 63.0
代謝性薬剤及び ビタミン剤 比率 %	162 12.1	231 17.3
消化器系薬剤 比率 %	142 10.6	163 12.2
泌尿器系薬剤 比率 %	42 3.1	53 4.0
化学療法剤、 ホルモン剤他 比率 %	10 0.7	10 0.8
診断用試薬 比率 %	1 0.1	1 0.1
その他の医薬品等 比率 %	49 3.6	36 2.7
合 計	1,344	1,336



## 株式の状況（平成23年3月31日現在）

### 株式数

1. 発行可能株式総数..... 300,000,000株  
 2. 発行済株式の総数..... 120,847,500株

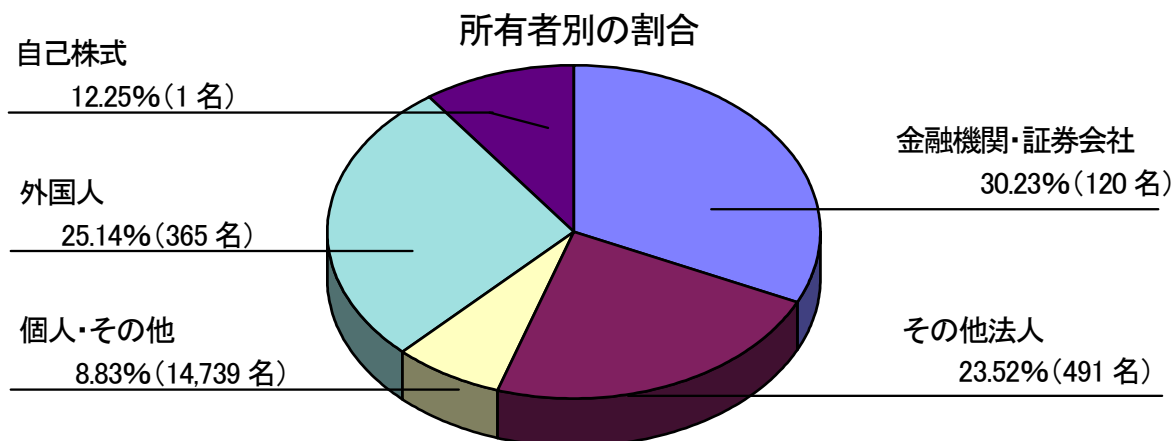
株主数..... 15,716名

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	8,017	6.63
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,749	4.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,683	4.70
明治安田生命保険相互会社	3,718	3.07
株式会社 鶴 鳴 荘	3,298	2.72
公益財団法人小野奨学会	3,285	2.71
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	2,458	2.03
ノーザントラストカンパニー(AVFC) サブアカウント アメリカン クライアント	2,273	1.88
株式会社 三菱東京UFJ銀行	1,728	1.43
SSBT ODO5 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	1,697	1.40

(注) 当社は、自己株式14,815千株を保有しておりますが、上記大株主には記載しておりません。

### 株式の分布状況



(注) 上記所有者別の割合について、小数点以下第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になっておりません。

## 開発品の進捗状況

## 1. 国内開発品状況

## &lt;承認取得開発品&gt;

商品名／開発コード	区分	効能／薬理作用	剤型	
注射用プロスタンディン <sup>※1</sup>	効能追加	勃起障害の診断／血管拡張作用	注射	自社
リバスタッチパッチ <sup>※2</sup> (ONO-2540) /ENA713D	新有効成分	アルツハイマー型認知症／コリンエステラーゼ阻害作用	経皮 吸収剤	共同 (バルレイファーマ)

平成 23 年 3 月期 第 3 四半期決算発表時点からの変更点

※1：注射用プロスタンディンは平成 23 年 2 月 23 日付で「勃起障害の診断」の効能を取得しました。

※2：リバスタッチパッチ (ONO-2540) は平成 23 年 4 月 22 日付で製造販売承認を取得しました。

## &lt;申請中開発品&gt;

製品名／製品名候補 ／開発コード	区分	予定効能／薬理作用	剤型	
グラクティブ錠 (ONO-5435) /MK-0431	効能追加	2型糖尿病 (α-グルコシダーゼ阻害剤との併用療法) /DPP-4 阻害作用 2型糖尿病 (インスリン製剤との併用療法) / DPP-4 阻害作用	錠	共同 (MSD)
コアベータ静注用 (ONO-1101)	効能追加	コンピューター断層撮影による冠動脈造影における冠動脈描出能の改善 / β <sub>1</sub> 遮断作用 (短時間作用型)	注射	自社
リカルボン錠 (ONO-5920) /YM529	用法・用量変更 (月 1 回製剤)	骨粗鬆症 / 骨吸収抑制作用 (ビスホスフォネート系製剤)	錠	共同 (アステラス製薬)
プロイメンド静注用 (ONO-7847) /MK-0517	新有効成分	抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐 ／ニューロキニン 1 受容体拮抗作用	注射	導入 (メルク社)

## &lt;臨床試験中開発品&gt;

製品名／製品名候補 ／開発コード	区分	予定効能／薬理作用	フェーズ <sup>a</sup>	剤型	
イメンドカプセル (ONO-7436) /MK-0869	小児での効能 追加	抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐 ／ニューロキニン 1 受容体拮抗作用	Ⅲ	カプセル	導入 (メルク社)
注射用オノアクト <sup>※3</sup> (ONO-1101)	効能追加	心機能低下例における頻脈性不整脈 ／β <sub>1</sub> 遮断作用 (短時間作用型)	Ⅱ/Ⅲ	注射	自社
ONO-4641	新有効成分	多発性硬化症 / S1P 受容体作動作用	Ⅱ	錠	自社
ONO-3849	新有効成分	オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治 性便秘 / μ オピオイド受容体拮抗作 用	Ⅱ	注射	導入 (プロジェックス社)
ONO-7643 /RC-1291	新有効成分	がん悪液質 / グレリン様作用	Ⅱ	錠	導入 (ヘルシン社)
ONO-2745 <sup>※4</sup> /CNS 7056	新有効成分	全身麻酔 / GABA <sub>A</sub> 受容体作動作用 (短時間作用型)	Ⅱ	注射	導入 (パイオン社)
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症 / カテプシン K 阻害作用	Ⅰ	錠	自社
ONO-4538 /BMS-936558 (MDX-1106)	新有効成分	悪性腫瘍 / 完全ヒト型抗 PD-1 抗 体	Ⅰ	注射	自社
ONO-3951 /Asimadoline	新有効成分	過敏性腸症候群 / κ オピオイド受容 体作動作用	Ⅰ	錠	導入 (タイオガ社)
ONO-6950	新有効成分	気管支喘息 / ロイコトリエン受容体 拮抗作用	Ⅰ	錠	自社

平成 23 年 3 月期 第 3 四半期決算発表時点からの変更点

※3：手術時及び手術後の頻脈性不整脈治療剤「注射用オノアクト」の効能追加として、心機能低下例における頻脈性不整脈を対象としたフェーズⅡ/Ⅲ試験を開始しました。

※4：全身麻酔薬 ONO-2745 はフェーズⅡ試験を開始しました。

## 2. 国外開発品状況

< 臨床試験中開発品 >

製品名／製品名候補 ／開発コード	区分	予定効能／薬理作用	フェーズ	剤型	
ONO-5334	新有効成分	骨粗鬆症／カテプシンK阻害作用	Ⅱ	錠	自社
ONO-4641	新有効成分	多発性硬化症／S1P受容体作動作用	Ⅱ	錠	自社
ONO-4538 / BMS-936558 (MDX-1106)	新有効成分	悪性腫瘍／完全ヒト型抗PD-1抗体	Ⅰ	注射	共同 (フリストル・マイアーズ スクイブ社)
ONO-4538 / BMS-936558 (MDX-1106)	新有効成分	C型肝炎／完全ヒト型抗PD-1抗体	Ⅰ	注射	共同 (フリストル・マイアーズ スクイブ社)
ONO-7746	新有効成分	血小板減少症／トロンボポエチン受容体作動作用	Ⅰ	カプセル	導入 (日産化学工業)
ONO-6950	新有効成分	気管支喘息／ロイコトリエン受容体拮抗作用	Ⅰ	錠	自社
ONO-2952 <sup>※5</sup>	新有効成分	過敏性腸症候群／TSPO (トランスロケータープロテイン 18kDa) 拮抗作用	Ⅰ	錠	自社
ONO-4053 <sup>※6</sup>	新有効成分	アレルギー性鼻炎／プロスタグランディンD2受容体拮抗作用	Ⅰ	錠	自社

平成 23 年 3 月期 第 3 四半期決算発表時点からの変更点

※5：過敏性腸症候群治療薬 ONO-2952 はフェーズⅠ試験を開始しました。

※6：アレルギー性鼻炎治療薬 ONO-4053 はフェーズⅠ試験を開始しました。

## 主な開発品

### プロイメンド静注用 (ONO-7847) /MK-0517 注射剤

ONO-7847 はニューロキニン 1 受容体拮抗剤で、抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐を対象として開発を進めています。なお、本剤はイメンドカプセル (ONO-7436) /MK-0869 を注射剤に改変したものです。

国内：抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐 申請中

海外：抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐 承認 (メルク社)

### ONO-4641 錠剤

ONO-4641 は S1P (スフィンゴシン-1-リン酸) 受容体作動薬で、多発性硬化症を対象として開発を進めています。本剤は血中のリンパ球をリンパ節にとどめ、血中のリンパ球数を減少させる作用を持つ低分子化合物であり、その結果として病巣へのリンパ球浸潤を抑制することで、難病とされる多発性硬化症などの自己免疫疾患の画期的な治療薬になるものと期待しております。

国内：多発性硬化症 フェーズ II (日米欧三極での国際共同治験)

海外 (米国、欧州)：多発性硬化症 フェーズ II (日米欧三極での国際共同治験)

### ONO-3849 注射剤

ONO-3849 は末梢の  $\mu$  オピオイド受容体拮抗薬で、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘を対象に開発を進めています。オピオイド鎮痛薬は癌性疼痛に対して主に使用されているのですが、副作用として難治性の便秘を伴います。本剤はオピオイド鎮痛薬の鎮痛効果に影響を及ぼすことなく、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性の便秘を改善する薬剤です。

国内：オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘 フェーズ II

海外：発売中 (プロジェニックス社)

### ONO-7643/RC-1291 錠剤

ONO-7643 は低分子のグレリン様作用薬で、がん悪液質を対象として開発を進めています。本剤は食欲増進や筋肉増強などの生理作用を有するホルモンであるグレリンと同様の作用を持つ低分子化合物であり、癌の進行に伴い食欲不振、体脂肪量や筋肉量の低下を特徴とする全身消耗状態 (がん悪液質) にある患者さんの QOL を改善する画期的な薬剤になるものと期待しております。

国内：がん悪液質 フェーズ II

海外 (米国など)：がん悪液質 フェーズ II (ヘルシン社)

### ONO-5334 錠剤

ONO-5334 はカテプシン K 阻害剤で、骨粗鬆症を対象として開発を進めています。ビスホスフォネート製剤と異なり、骨形成に影響を及ぼさず、骨吸収のみを抑制する新しい作用メカニズムの骨粗鬆症治療剤です。

国内：骨粗鬆症 フェーズ I

海外 (欧州)：骨粗鬆症 フェーズ II

#### ONO-4538/BMS-936558(MDX-1106) 注射剤

ONO-4538 は完全ヒト型抗 PD-1 抗体で、癌などを対象として開発を進めています。PD-1 は、リンパ球の表面にある受容体の一種で、生体において活性化したリンパ球を沈静化させるシステム（負のシグナル）に関与しています。癌細胞は、このシステムを利用して免疫反応から逃れているという研究成績が報告されています。ONO-4538 は、リンパ球を沈静化させる PD-1 の働きを抑制することで、癌細胞やウイルスを異物と認識してこれを排除する免疫反応を増進するものと期待しております。

国内：悪性腫瘍 フェーズ I

海外（米国）：悪性腫瘍 フェーズ I（ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発）

海外（米国）：C 型肝炎 フェーズ I（ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発）

#### ONO-2745/CNS 7056 注射剤

本剤は GABA<sub>A</sub> 受容体作動作用を有する短時間作用型全身麻酔薬で、全身麻酔時の導入及び維持、ならびに集中治療における人工呼吸管理中の鎮静剤として開発を進めております。本剤はエステラーゼと呼ばれる酵素によって速やかに代謝され、薬剤投与終了後速やかに鎮静効果が消失することから、調節性や安全性に優れた薬剤になるものと期待しています。

国内：全身麻酔 フェーズ II

海外（米国）：フェーズ II（パイオン社）

#### ONO-3951 錠剤

ONO-3951 は  $\kappa$  オピオイド受容体作動薬で、下痢型の過敏性腸症候群を対象に開発を進めています。3 種類あるオピオイド受容体（ $\mu$ 、 $\kappa$ 、 $\delta$ ）のうち、消化管の痛みや運動に関与しているといわれる  $\kappa$  受容体に選択的に作用し、腹痛をはじめとする種々の腹部症状を改善する薬剤です。

国内：過敏性腸症候群 フェーズ I

海外（米国）：過敏性腸症候群 フェーズ III（タイオガ社）

#### ONO-6950 錠剤

ONO-6950 はロイコトリエン受容体拮抗薬で、気管支喘息を対象に開発を進めています。気道炎症を抑制することにより、気管支喘息患者さんの症状改善が期待されます。

国内：気管支喘息 フェーズ I

海外（米国）：気管支喘息 フェーズ I

#### ONO-7746 カプセル（日産化学工業株式会社より導入）

ONO-7746 は体内において血小板の産生を促進する造血因子であるトロンボポエチンの受容体を活性化することにより血小板を増加させる経口投与が可能な低分子化合物で、血小板減少を伴う種々疾患の出血リスクの軽減や血小板輸血に伴う感染リスクを克服する薬剤として開発できるものと期待しています。なお、日産化学工業は原薬の開発・製造を担うなど、共同して開発を進めています。

海外（米国）：血小板減少症 フェーズ I

#### ONO-2952 錠剤

ONO-2952 は主に中枢においてニューロステロイドの産生に関与する TSP0 (トランスロケータープロテイン 18kDa) 拮抗薬で、過敏性腸症候群を対象に開発を進めています。ストレスが脳腸関連の異常を引き起こすメカニズムを遮断することで、過敏性腸症候群の諸症状を改善することが期待されます。

海外 (米国) : 過敏性腸症候群 フェーズ I

#### ONO-4053 錠剤

ONO-4053 はプロスタグランジンD2 受容体拮抗薬で、アレルギー性鼻炎を対象に開発を進めています。鼻閉、くしゃみ、鼻汁といったアレルギー性鼻炎の3主徴のなかで、特に鼻閉に対する改善効果が期待されます。

海外 (欧州) : アレルギー性鼻炎 フェーズ I

#### グラクティブ錠 (ONO-5435) /MK-0431

国内 : 2型糖尿病 ( $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤との併用療法、インスリン製剤との併用療法)  
申請中 (効能追加) (MSD 株式会社と共同開発)

#### コアベータ静注用 (ONO-1101)

ONO-1101 は手術時および手術後の頻脈性不整脈治療剤「注射用オノアクト」として既に承認されています。コンピューター断層撮影による冠動脈造影における冠動脈描出能の改善の効能における用法・用量は、既承認のものとはその内容が大きく異なるため、新含量製剤 (製品名候補 : コアベータ静注用) を開発しました。

国内 : コンピューター断層撮影による冠動脈造影における冠動脈描出能の改善 申請中

#### 注射用オノアクト (ONO-1101)

国内 : 心機能低下例における頻脈性不整脈 フェーズ II/III

#### リカルボン錠 (ONO-5920) /YM529 錠剤

本剤は既承認の骨粗鬆症治療剤リカルボン錠の月1回間歇経口製剤です。

国内 : 骨粗鬆症 申請中 (アステラス製薬株式会社と共同開発)

#### イメンドカプセル (ONO-7436) /MK-0869

国内 : 抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐 フェーズ III (小児での効能追加)